

数物科学専攻	研究分野	確率解析学	Lab. ID MP05
研究室Webサイト			
研究課題の概要			
<p>Kolmogorovにより始められた測度論を基にした確率論が研究対象である。(だから、院生は測度論・積分論の知識を習得していることが求められる。) 確率論における古典的な主題である極限定理を扱う。必ずしも独立とは限らない確率変数列 -- 例えば、マルチンゲール、あるいは間隙3角関数列 -- に対する大数の強法則、中心極限定理、重複対数の法則について考える。最近の私(高信)の関心は、数論と係わる極限定理にある。例えば、Riemann zeta関数に対する Bohr-Jessenの極限定理である。(院生は数論、とくに初等整数論について基礎的事柄を知っていると有難い。)</p>			
博士前期課程/後期課程院生の指導方針、具体的なカリキュラム、研究室での活動等			
<p>【博士前期課程】1年生は、確率論に関する一般的な教科書を読むことにより、関係する知識の習得をしてもらいます。それが出来た2年生(あるいは1年生の途中から)は、院生の興味・能力に応じて研究課題を定め、関連する論文を読み、修士論文の作成をしてもらいます。</p> <p>【博士後期課程】1年目から博士論文の作成に向けて研究課題に取り組んでもらいます。それは、多くの場合、修士論文の内容を発展させたものになるでしょう。教員(高信)は、博士論文作成のためのサポートを行います。</p>			
研究室生活の紹介等			
<p>本研究室が所属する数学コースでは、院生の研究が円滑に遂行できる環境を与えるため、院生室が設けられ、机とスペースが1人1人の院生に与えられます。各院生室には共有のPCとプリンターが完備されています。院生は、通常、週に1回のセミナーを行います。残りの時間は、自分の研究を行い、次のセミナーに備えます。その準備には、思ったよりも多くの時間が必要になります。</p>			
教員からのメッセージ			
<p>本・論文に書いてあること、言っていることをそのまま鵜呑みにしないで、自分で確認・納得して先に進むということを常々心掛けておきましょう。「行間を埋める」という作業は、数学をやっていく上でとても大切なことであると、教員の私(高信)は考えています。</p>			
最近(過去3年間+必要に応じて)の修士論文題目			
修了年月	タイトル		
2017.3	一様有界な大乗法系に対する重複対数の法則		
2015.3	2つの整数が互いに素である確率		
2015.3	投票者モデルの社会学的解釈		
2015.3	Euler公式の実解析的証明		
最近(過去3年間+必要に応じて)の博士論文題目			
修了年月	タイトル		
研究室連絡先メールアドレス	高信 敏 <takanob *at* staff.kanazawa-u.ac.jp>		